

廣讚寺

ジャーナル

第163号

(発行所)

真宗大谷派

松岡山 廣讚寺

中村区城屋敷町3-30

TEL (052) 411-5301

FAX (052) 411-5341

携帯 090-1568-4623

<E-mail>

matsuoka@kosanji.or.jp

私の日課

釋 綽智

九月に入ると急に朝晩涼しくなってきましたが、早起きは三文の徳と思いい約二キロの早朝散歩を心がけています。コースは定めていませんが最近稲葉地公園から西にある西井筋(川ですがレンガで舗装)を岩塚の方へ歩き同朋学園を周って再び公園に戻ることが多いようです。



塚の方へ歩き同朋学園を周って再び公園に戻ることが多いようです。

このコースが定まったのは途中に禅寺や草むらの中にある不思議な五本の木の株と花の木神社や同朋学園の親鸞聖人の立像があり、これらの目標がどうやら私の気持ちを満たしてくれようです。時間は五十分ほどなのですが疲れず続けられるのはきっと阿彌陀様のお慈悲のおかげと思っております。今は緊急事態宣言中で寺でのお勤めも自粛中ですが早く皆さんと一緒ににお勤めしたいですね。



『歎異抄』

— 歎異は私に届くマインド(1) —

田中 智教

以前、本紙に寄稿した『歎異抄』から見る親鸞聖人の教育」という文章でも触れた、その『歎異抄』という書物について触れてみたいと思います。

著者は親鸞聖人の弟子の唯円とされており、親鸞聖人が亡くなられてから二十年から三十年後に書かれたのではないかと言われています。これほど有名で、浄土真宗においてとても大切にされている書物なのに、「なんだ、親鸞聖人が書いたものではないのか」とお思いになられる方もおられるかもしれませんが、そのことがとても重要なことでもあります。

この書物の構成としては、解釈や意見の分けられると

ころでもありますが、私が教えられてきたことと言え
ば、大きく分けて「師訓篇（親鸞聖人が法然上人を通
して受けた教えを唯円が直接聞いた語録）」と「歎異
篇（唯円が親鸞聖人から受けた教えとは異なる理解が
されていることに対する歎なげき）」と呼ばれる二つに分
かれ、その前・中・後に「序文」が入ります。「前序」
「師訓篇（第一章から第九章）」「中序（第十章）」「歎
異篇（第十一章から第十八章）」「後序」という章立て
で進んでいきます。ちなみに、この章立ての章という
のも、金子大榮師かねこ だいえい以降、便宜上「章」と表記されてき
たと聞いていますが、「後序」の冒頭に「右条々は…」
と書いてありますので、本来的には「条」と記した方
が良いのだということです。

以上のことを踏まえて限られた字数の中で一番申し

上げたいのは、親鸞聖人が仰せられたことを唯円が直接聞いて書き残されたという重要性です。親鸞聖人の主著といえは『教行信証』が挙げられますが、とても難しいし読み解くことに大変な労力を要します。しかし、『歎異抄』は親鸞聖人が書かれたものでなくても、直接仰ったことを唯円が記してくれたことで、親鸞聖人のお人柄を感じることもできるし、私自身に向けられた言葉と受け止めることのできる書物なのです。親鸞聖人が亡くなって三十年も経過すれば異議もあつたという歴史書でもなく、唯円がその異議に対して書いた批判の書でもなく、まさに現代の私たちにまでイキイキとはたらく精神（マインド）の書として読むと良いのだらうと思います。つまり、その異議を自身の内や現代社会の中に見出してこそ、イキイキとはたらく

と言えるのではないのでしょうか。

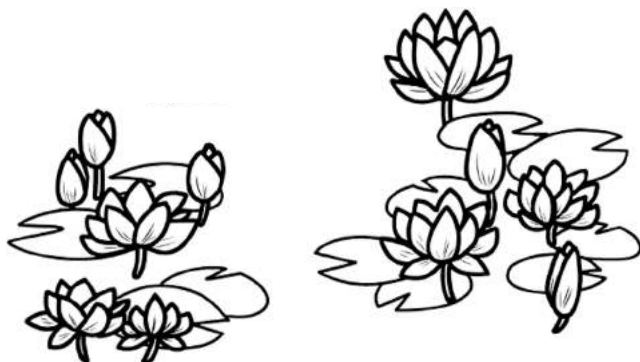
近年、「マインドセット」という言葉が多用されますが、私たちがセットした状態では十分に味わえないのも『歎異抄』でしょう。そのセットされた私たちをも想像して、唯円は筆を執られたのだとありがたく受け止め、改めて『歎異抄』を開きたいと思います。（続）



蓮

5年ほど前、常滑に行ったとき陶器を売っているお店でとても大きな鉢が置いてありました。近くに寄って見てみると本当に大きくてびっくりしました。これで蓮を育てたらどうなるだろうと考え欲しくなりました。

店の人に聞いたら値段もそんなに高くない、これはいいと思いましたが大きくて持って帰ることができません。そうしたら店の人がトラックで運んでくれることになり、後日、その鉢は廣讚寺本堂の前に2つ並べて置いてあります。かつてインドでは蓮の花が最も尊いとされ、今でも仏具や仏画に蓮の花が用いられることが多いです。



行事予定

十月二十八日(木) 十時 親鸞聖人命日のお勤め

(十一月一〜三日は廣讚寺報恩講ですがどのようにお勤めするかは未定です)